関わり方について紹介しています。な開発目標)とトラック運送業界の本特集では、SDGs(持続可能

みです。年

(平田優宇代表取締役)の取り組今回は、兵庫県加西市の平田運輸

15

特

デ I

受けて同社に入社した。親が体調を崩したことを

社におけるSDGs

市の魅力を広くアピ

を続けていたが、

、先々代社長である父縁けていたが、平成19

プロジェクトを立ち上げ取り組み加速・地域社会活性化」と「資源循環型輸送」

- 京し10年ほど舞台俳優

がける運送会社である。



②エコジスティクスプロジェ

対する交通安全啓発活動同社では、地元住民に③交通安全への取り組み

察署と協定を締結。警察

交通安全への取り組みにも力を注ぐ子どもたちが安心して暮らせる地域へ にも力を入れている。



代表 者 代表取締役 平田 優宇 平成10年1月30日

従業員数 71人(うちドライバー55人) 両 数 72台

行う 「気球の飛ぶまち加西」をPRするために導入した、気球をデザインしたを ラッピングトラック。同社では現在、気球をモチーフにしたデザイント通 ラックを6台運行している

社が手がける金属製品同プロジェクトは、

のではないか」と考え、「業界の社会的地位をで、業界の社会的地位をずは自社の活動を通じ

ラッ

を運行しています。デザーを運行しています。 を運行しています。デザ6台のデザイントラック・現在、当社では合計

の輪がより一層広がってい ただくことで、SDGs くの地元企業にも参画い Gsプロジェクト」とし一層広げており、「SDGsを通じての地域貢献への取り組みをに、SDGsを通じてのの指のをがしてののでは、ののでは、加西市とののでは、加西市とののでは、加西市とののでは、加西市との

にも、様々な活動を展開ての2つの取り組み以外

きさや死角などを実感し てもらっている。 また、6年には加西警 4年から地元小



企業プロフィール

本 金 1,500万円

会的地位が低くみられて させたものである。

をデザインした加西市Pクでも、トラックに気球しているラッピングトラッた。同社が元年から運行 まち加西」をPRしてき しており、「気球の飛ぶど、気球のフライトに適

で、輸送効率化が実現でに行えるようにしたこと

る未来を創る」

トラックを貸し出し、小年は市内の小学校3校に室」を開催しており、今 学校などで「交通安全教

本社所在地 兵庫県加西市鶉野町83-98

することが大きなモチベ してきた父親をサポー

してきこと見た。年にわたり第一線で活躍」の日本長にとっては、長 き継いだ平田社長は、「まていたという。 家業を引いたことに違和感を覚え るトラック運送業界の社平田社長は、家業であ 業を通じて自分がすべき退。これをきっかけに、「事30年に父親が社業から引ーションとなっていたが、 ①ハッピーフライトプロジェ のラッピングトラックに関 プロジェクトでの取り組み する取り組みをより深化 述のシティプロモーション 同プロジェクトは、

的落ち着いた風が吹くなが広がり、上空には比較加西市は台地上に平野 へのプレゼンテーションのにあたっては、加西市長同プロジェクトの推進 っている。 ことができ、現在は加

学生たちにトラックの大

は 「当社としては、地域 で、運送業等に従事する で、運送業等に従事する をするの人々が胸を張って をるようにしていきたい

平田 優宇 代表取締役 るために、 元の加西市を広くPRす同社では令和元年、地 うという発想に至ったと 地域貢献を軸にSDGsに取り「運送業の社会的地位を高めたい」

組む

金属リサイクル事業を手部品などの輸送のほか、

方、その翌年には世界的クの運行を開始した。一ションのラッピングトラッ 染症の感染が拡大したこに新型コロナウイルス感

シティプロモー 貢献活動を加速させた。ジェクト」を立ち上げ、ジェクト」を立ち上げ、に対りに「SDGsプロに社内に「SDGsプロ 裕ができた平田社長は、た。コロナ禍で時間的余とで、経済活動が停滞し り組むことを決意。3年会社としてSDGsに取 を支える運送事業者が 誇りをもちながら事業を 続けていくためにはどう したらよいか」を検討し、 「コロナ禍でも国民生活

図 エコジスティクスプロジェクトの概要

After Before

②2社に対して車両手配 ③2車両手配する輸送コストが発生

きたほか、輸送に伴って削減することができた (図)。 「日社では、同プロジェ

運送業従事者に「誇り

を感じてもらいたい

ででである。 一躍」という想いを込めて、 一躍」という想いを込めて、 が、地域社会活性化=飛 が、地域社会活性化=飛

りを無駄なく組み合わせ金属スクラップの引き取送と、製品製造時に出る

ることで、

トラックの

してもらい、

を寄付することで、 らった企業の売上の一部

する取り組みである。 CO²排出の削減を実現

働率を高めるとともに、

もたちの健全育成に繋げ

スクラップの取扱量に応提出しているほか、金属削減量をレポートとして 業に、同輸送によるCO²クトに参画する取引先企 じてカーボンクレジッ じて、従業員が「トラッDGsへの取り組みを通

環境配慮に向けた取り 環境配慮に向けた取り 受賞している。 り」を感じられるようにク運送事業者としての誇

年4月から7年3月末ま年4月から7年3月末までの1年間で、ドライバー職の離職者を出すことがなかった。また、取引先からの反応も良化しているという。

あかった。 そこで、 荷台 で手配しなければなら たため、 それぞれ別の車

を付与している。

ップ輸送のトラックでは

のトラックと金属スクラ従来は、金属製品輸送

を1台のトラックで同時属スクラップの引き取り

を改良して製品輸送と金

り、「CO2を吸収してお 長した木を使った木造倉 長した木を使った木造倉 長した木を使った木造倉 を発電された電力や、再 た電力の利用」、「地域住 た電力の利用」、「地域住 た電力の利用」、「地域住 た電力の利用」、「地域住 とが流拠点で働く人たち、 を想った物流のあり方を を想った物流のあり方を

校の児童・生徒たちが描の小中学校や特別支援学 どを抑制し、犯罪や 実現を目指している。 安心して暮らせる社会の SDGsの様々な取り 組みを通じて 来年もチャレンジし

②車両手配の手間を削減

④排出するCo2を50%削減

①製品・金属スクラップを同時に輸送し、空車率削減

ちが啓発ポスターを目に台数を増やし、子どもた が、ラッピングトラックの額には及びませんでした する機会を多くすること 台数をもっと増やすため ングでは残念ながら目標 変わってくると考えて 全に対する思いは大きく 子どもたちの交通安 クラウドファンディ

ンしたラッピングト交通安全啓発ポスター ングトラックは、行させている。同

平田運輸㈱のSDGs推進へ

月半ばにかけて、 アピールを継続していくもたちへの交通安全への ラッピングトラックを走ー10作品をデザインした ドファンディングサイトで 今年3月から4 その後も子ど 同ラッピ 6 年 に クラウ

いた交通安全啓発ポスタ

